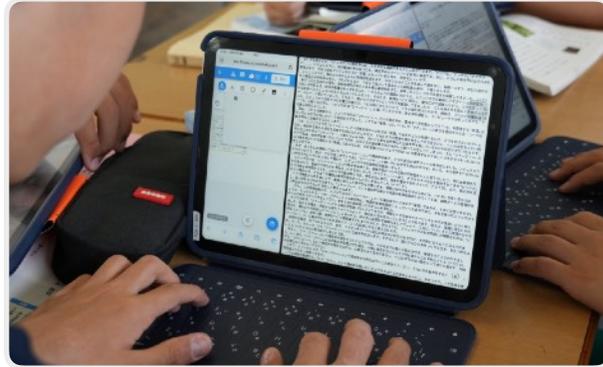


## ICT活用が学びの多様性を促進する



紙の教科書に鉛筆で傍線を入れながら理解を深めています。(右)



音声によって繰り返し聞き直すことによって理解を深めています。(上)

子どもが、どの資料を活用したら良いか悩んでいます。このような時に、先生は適切な資料に「繋げてく役割」を担っていました。



多様な学びを生徒が主体的に進めるためには小学校で獲得する基本的な学習スキルや自己調整能力が強固な土台として不可欠である

学力向上検討委員会の公開授業（上）後の研究会に参加した先生方の意見をまとめました（下）。

授業後の研究会に参加された先生方からは中学校の授業と小学校の学びのより大きな文脈において、ICT活用が学びの多様性を促進し、それが小学校で培われた基礎的な学力や自己調整能力の上に成り立つことを示唆する意見が出されていました。

**【ICT活用が学びの多様性を促進する】**  
反復と修正の容易さ：

iPadのようなICTツールを用いることで、生徒は文章を消しながら要約するなど、「やり直し」を気軽に繰り返すことができます。これは、紙媒体では困難な柔軟な思考プロセスや試行錯誤を可能にし、学びを深める上で非常に価値があると考えられています。

学習の選択肢の拡大：

ICTを活用することで、子どもたちは情報にアクセスする多様な選択肢を得ます。例えば、「何が見やすいのか」「耳で聞く方が良いのか」「目で見る方が良いのか」といった個々の特

性に応じた学習方法を選択できるようになり、それぞれが「やりやすい形が実現できる」と指摘されています。

**個別最適化された学習の支援：**

ICTは、生徒が自分のペースで学習を進める「自由度的」な学びを強力に支援します。例えば、ある生徒はノートブックLMを繰り返し聞き、メモを取ることで理解を深め、別の生徒は自分のペースでプリントに取り組み、間違いを修正しながら進め、その後教科書やスクールタクトを使ってさらに学習を進めるなど、完全に異なる学び方が可能になることが示されています。

**【学びの多様性と小学校での学びの土台】**

**「自由度的」な学びの実現：**

今回の公開授業では、生徒が「自分たちがどういった手順でやっていくか」を選択できる「自由度的」な学びが行われています。これは生徒が自身の関心や理解度に応じて、学習の進め方を選べる多様な学びの形態です。

例えば、Aさんは自分のペースでプリントをこなし、間違えても何度も書き直し、その後は教科書を読み込んだりスクールタクトで考えを深めたりと、「自分の学びに忙しい」状態で学習を進めていました。さらに、彼女は次回の授業に向けて、「自分がやりやすいまとめ方や進め方」を自分で予測して準備することまでできています。

Bさんは、資料を繰り返し聞きながらメモを取り、理解を深めていくという、Aさんとは「全く違う」学び方をしていました。**小学校での学びが土台となる重要性：**

「段落」のこなど国語の基礎的な概念は、小学校で「一つづつやってきたもの」で、中学校1年生の生徒はこれらをすでに「駆使して使っている」と指摘されています。このため、小学校の先生からは「ちゃんと身につけておかないとだめだ」「小学校の学びが土台になっているんだな」という認識が示されており、小学校での基礎学習が中学校での多様な学びを支える不可欠な土台であることが強調されています。

生徒が「自由度的」に学ぶ中で、「立ち帰る場所」としての基礎的な知識やスキルが必要であることが述べられています。小学校で培われたものが、生徒が自律的に学ぶ上でのよりどころとなります。

子どもたちが「どの資料とマッチングしたらいいかわからない」場合に、教師が適切に「マッチングさせて」助ける役割も重要です。これは、ただ「自習」させるのではなく、教師が「繋げてく役割」を担うことで、子どもたちの「考えが止まらないように」学びを継続させるという意味合いが含まれています。

今回の研究会では、ICTが個別最適化された多様な学びを技術的に可能にする一方で、その多様な学びを生徒が主体的に進めるためには、小学校で獲得する基本的な学習スキルや自己調整能力が強固な土台として不可欠であるという一貫したメッセージが先生方から伝わってきました。

授業の詳細はTeams「InaWaku2025授業づくり」参照

東部中学校 清水 涼太 先生の授業と研究会の様子を推進センターでまとめさせていただきました

伊那市学校教育情報化ビジョン2024

探究的な学び

先進的な学び

個別最適な学び

協働的な学び

自立的な学び

子どもと共に未来を創る教員